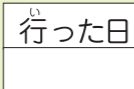


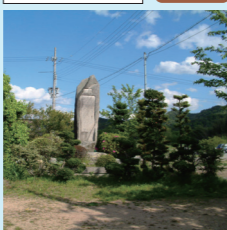
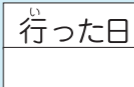
宇佐八幡神社と地福寺

明治時代に出された神仏分離令(神さまと仏さまを別々にまつりなさいという命令)で、全国各地で一掃にまつられていた神社とお寺が分けられてしまいました。しかし、ここでは神社とお寺が同じ境内にあり、昔のままの姿を残しています。



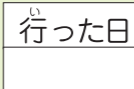
帰一学館碑

帰一学館は、地元出身の青田節が明治23年(1890)に開いた塾で、赤穂、宍粟、神戸などからやって来た若者629人がここで学びましたが、大正10年(1921)になくなりました。この学校の卒業生が昭和6年(1931)に記念碑を建てました。記念碑に書かれた文を選んだのは御立出身の歴史学者、三上参次です。



黒ぼこ(クロブク)と小芋

黒ぼこは、八幡地区に広がる黒色の火山灰の土地のことです。根菜類、特に里芋をつくるのにあっていて、「八幡の小芋」とよばれて人気があります。最近では、秋に小芋をつかった「芋煮祭」が開かれ、地域の中からも外からも数百名が集まり、この祭りを楽んでいます。

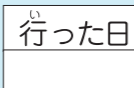


etc



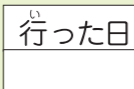
神南高等小学校跡

明治28年(1895)に船津・山田・豊富・香呂・なかでら 五つの村が、4年制の神南高等小学校をこの場所に開校しました。その後、各村に尋常高等小学校がつくられ、明治37年(1904)に神南高等小学校はなくなりました。



鍋ヶ森神社

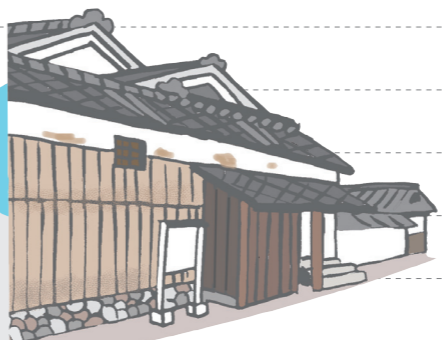
鍋ヶ森神社は西光寺野の南側にあります。昭和の終わりまで村の神さまがまつられていましたが、当時の副自治会長笹山氏のよびかけて、住民の憩いの場として邑日野に縁がある農業の神さま「アヌキタカヒコネ神」をまつる現在の鍋ヶ森神社が建てられました。



調べたこと、
わかったことを
書いてみよう!



58 船津地区



姫路藩の家老・河合寸翁は、藩の財政を立て直すために他に
どんなことをしたのでしょうか。調べてみましょう。

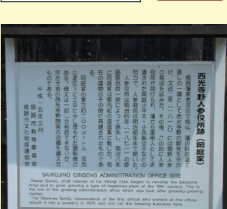
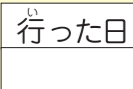


- 遺跡・史跡、歴史上の名所
- 神社・仏閣、歴史的建造物
- 歴史上の人物など
- 祭り、伝統行事
- 芸術品
- 伝統芸能など
- 景勝
- 生物・花
- 町並み
- etc その他

0m 500m 1km

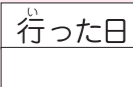
人參役所跡

19世紀の初め、姫路藩の家老・河合寸翁は藩の財政を立て直すために西光寺野を開墾し、朝鮮人参の栽培を始め、この場所に人參役所をつくりました。明治4年(1871)に起こった暴動により役所は焼けてしまいました。明治8年(1875)に人参の栽培をやめ、その後お酒づくりを始め、現在は神崎酒造有限会社になっています。



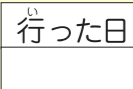
三上参次生誕地碑

幸田家の敷地内に「三上参次先生誕生之处」の碑があります。三上参次は慶応元年(1865)に幸田家で生まれ、5歳で野里の三上家の養子となりました。その後、日本の歴史研究の第一人者となりました。また、姫路城を国宝にするために力をつくしました。



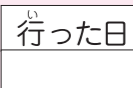
薬常寺

天台宗山門派のお寺です。鎌倉時代につくられた薬師如来坐像がまつられています。他には阿陀弥如来立像、観音菩薩立像や十六善神像、隠れキリシタン地蔵など、優れた宝物があります。毎年6月には菩提樹祭が開かれ、市内や市外からたくさんの方が集まって楽んでいます。



龍王舞 (通称ジョマイジョ)

毎年10月初めの正八幡神社の秋祭りに行われる舞です。平成2年(1990)に市の重要無形民俗文化財に指定されました。鼻高(天狗)のお面をつけ、鳥のかぶとをかぶり、真っ赤な衣装に黒塗りの鉾を持って舞います。



渡し場跡 (川船泊まり場)

三又にある市川の河岸が昔の船着き場で、川はさんた向こう側(香寺町岩部)との渡し場の跡です。市川の上流と下流、そして東西を結ぶ重要な場所ということから「船津」という地名がつけられたといわれています。昭和の初めに中津橋や大丸橋ができたので、「市川の渡し」はなくなりました。

